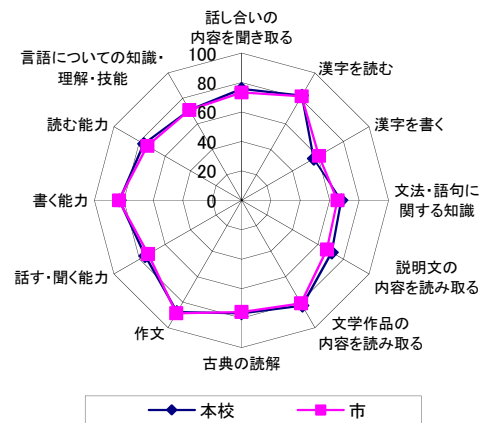


宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	75.6	73.3
	漢字を読む	82.2	81.5
	漢字を書く	56.6	60.6
	文法・語句に関する知識	67.8	65.2
	説明文の内容を読み取る	70.8	66.9
	文学作品の内容を読み取る	82.6	80.9
	古典の読解	76.8	76.0
	作文	87.8	88.6
観点別	話す・聞く能力	75.6	73.3
	書く能力	83.0	83.4
	読む能力	76.7	73.9
	言語についての知識・理解・技能	70.8	70.9



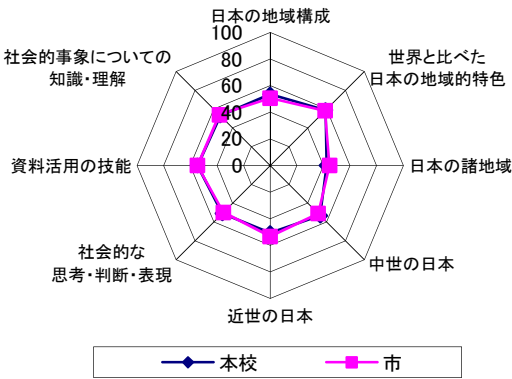
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	宇都宮市の平均と比べると正解率が+2.3%であった。正解率も75.6%と7割強であり、この内容では、概ね満足の結果といえるだろう。	本校は、「学び合い」をテーマにコミュニケーション能力の向上に力を入れている。 そこで、授業の様々な場面で話し合わせ、発言の場を与えてきた。 今回のテストでは「聞くこと」のみの出題だったが、左記の結果からもこの取り組みをさらに継続していきたい。
漢字	宇都宮市の平均と比べ、正解率が漢字の読みは+0.7%であるが、漢字の書きは-4%と低い。 漢字の書きについては、小学校で習った漢字しか出題されない。つまり、忘れていたという事である。来年度の入試に向けて充実させたい。	漢字の読みについては、今まで通りの取り組みでいくが、本年度の状況から、漢字の書きについては、来年度は取り組み方をかえないといけな。具体的には、小学校の漢字の範囲を細かく設定し、小テストや定期テストに出題していきたい。 また、生徒の受験対策として、家庭学習の定着も更に図り、力をつけさせたい。
文法・語句に関する知識	宇都宮市の平均と比べると正解率が+2.6%であった。 ただし、市の平均は上まわっているが、その正解率は7割に満たない。さらなる力の定着を図る必要がある。	問題の難易度にもよるであろうが、7割に満たない正解率では、更なる取り組みの見直しが必要である。 具体的には、文法や語句などについては、資料集やオリジナルのプリントを作って学習し、ワークなどの問題演習で確認するといった方法を取っているが、来年度は、問題演習の時間を増やし、更に力を定着させたい。
説明文の内容を読み取る	宇都宮市の平均と比べると正解率が+3.9%であった。また、本校での正解率は70.8%と7割を超えている。 説明文の読解で7割を超えていれば、この内容では、満足の結果といえるだろう。	授業では、文章の構成や展開を考え、筆者のものの見方や考えを捉えるだけでなく、筆者の主張の根拠について吟味(批評)することを取り入れてきた。吟味(批評)することを通して論理的思考力を育てたいと考えているからである。今回の結果を受けてこの取り組みをさらに充実させていきたい。
文学作品の内容を読み取る	宇都宮市の平均と比べると正解率が+1.7%であった。また、正解率も82.6%と8割を超えている。 したがって、この内容では、満足の結果といえるだろう。	文学的な文章の読解では、リーディングストラテジーの手法を取り入れた授業を実践している。自分の読みの中で自ら疑問点を定め、それを数人の話し合いで解決していくことで、登場人物の心情や物語の主題のを読み取っていく。 また、説明文と同じく表現や展開などの批評も行っている。 左記の結果からも来年もこの方法を継続していきたい。
古典の読解	宇都宮市の平均と比べると正解率が+0.8%とほぼ同じであった。また、正解率も7割強である。 したがって、この内容では、満足の結果といえるだろう。	古典では、折りにふれ、現代との違いや共通点を比較させることを中心に取り組んできた。そして、そのことから現代とのつながりや考え方について様々な考えを引き出してきた。 左記の結果から、今後も興味・関心を引き出す指導を心がけていきたい。
作文	宇都宮市の平均と比べると正解率が-0.8%と少し低いが、正解率は87.8%と9割近くかなり高い。 したがって、この内容でも、概ね満足の結果といえるだろう。	文章の目的に応じて、その都度、型を教えたり、表現の仕方に注意させたりして書かせてきた。授業では、それなりの成果が見られ、また、昨年度が-1.9%だった事から考えるとだいぶ力がついて来たともいえるだろう。 しかし、少しとはいえ、まだ市の平均より下なのは事実である。もう一度、間違いの多かった原稿用紙の使い方や、段落の意識を徹底させたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の地域構成	53.5	50.7
	世界と比べた日本の地域的特色	58.8	58.2
	日本の諸地域	42.3	44.6
	中世の日本	53.2	51.0
	近世の日本	50.7	53.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	50.9	49.8
	資料活用 of 技能	54.6	54.7
	社会的事象についての知識・理解	53.1	53.9



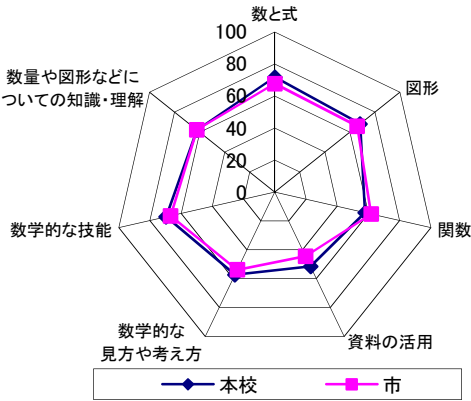
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	日本の地域構成	日本の地域後世に関しては、小問5つ出題された。市の平均は2.8%上回った。時差の計算の正答率が低い、その他の問題は正答率が高い。	総じてグラフの読み取りや時差の計算などの技能が苦手なように感じる。授業の中で繰り返しグラフの読み取りや計算の反復練習をさせる。さらに、思考・表現は授業の中で考える時間を設けているにもかかわらず低かった。なので、さらに練習を重ねる必要がある。
	世界と比べた日本の地域的特色	世界と比べた日本の地域的特色に関しては、小問4問出題された。市の平均+0.6%とほとんど変わらなかった。主にグラフから読み取る問題と、変化の要因を考える問題が出題された。	
	日本の諸地域	大問2つ小問にすると7問出題された。対象地域は「九州」「中国四国」地方である。2.3%市の平均を下回った。資料の読み取る技能、表現に関する問題が中心であった。	
歴史	中世の日本	大問1つ小問4つが出題された。市の平均を2%上回っていた。時代ごとの事象や文化を並べ替える問題が出題された。	中世の問題から、大まかな時代背景とできごとに関する知識が身についていることが覗えた。なので、さらに深く考え、文章で表現できるようにしたい。近世に関しては、人物・年号・できごとなどを中心に復習をして、近現代につなげていきたい。
	近世の日本	近世の日本に関しては大問2つ、小問にすると12問出題された。今回の調査の中で2.6%と市の平均を最も大きく下回った。江戸時代の庶民の生活と文化に関する解答率が低いことと、江戸時代の大阪の位置に関して文章で表現するところが低いことが要因と考えられる。	

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	71.7	67.7
	図形	68.1	65.9
	関数	57.8	61.7
	資料の活用	51.6	44.4
観点別	数学的な見方や考え方	57.3	53.9
	数学的な技能	69.6	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	62.1	62.3



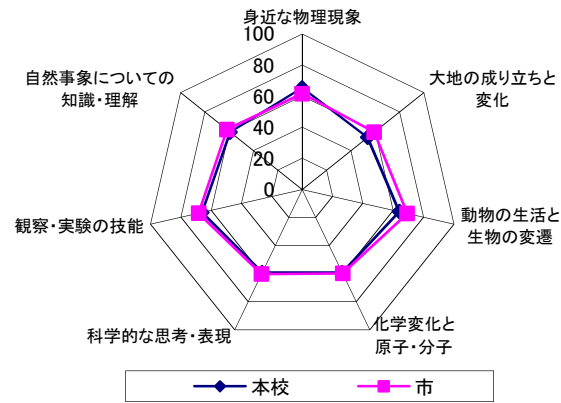
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	宇都宮市の平均を4%上回っている。通常の授業では、授業中に自分のペースでできるだけたくさん計算練習ができるように練習プリントを用意して取り組ませている。	基礎基本の定着のために、反復練習に力を入れる。授業中にできるだけたくさん練習できるようにプリントを用意したりワークの活用を図ると共に、宿題プリントなどで家庭学習にも力を入れさせたい。
図形	宇都宮市の平均を2.2%上回っている。内容を見てみると、2年で学習した図形の性質を使って角度を求める問題はよくできているが、1学年で学習した空間図形の体積・表面積を求める公式を使う問題での正答率は、宇都宮市の平均より低い結果となっている。	2学年で学んだ図形の性質はよく理解されているので、今後、図形の証明の学習が続いても意欲を持って学習できるよう、例題を吟味したりワークシートを工夫してわかる授業を徹底する。また、1学年で学習した体積・表面積については、復習プリントで家庭学習を促し、復習の機会を増やしていきたい。
関数	宇都宮市の平均より3.9%低い。どの問いも、基礎的な問題で、1次関数の基礎・基本が十分身についていない生徒の割合が多いことを表している。	関数の学習の基本であるグラフ・式づくりについての理解が不十分な生徒が目立つ。T・Tの授業を利用してグラフ作成のきめ細かい指導や、練習プリントを使って式づくりに慣れさせるなどの工夫をして、基礎・基本をしっかり身につけさせていきたい。
資料の活用	宇都宮市の平均より7.2%上回っている。しかし、50%を少し上回る程度の正答率であり、この領域の理解の程度はよいとは言えない。	1学年の最後に学習した内容で、数学的な用語が比較的多く出てくる分野でもある。しかし、数学の中でも一番身近な内容でもあるので、関心を持って取り組める題材を使って復習する機会を設けていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	身近な物理現象	65.3	61.6
	大地の成り立ちと変化	53.8	59.1
	動物の生活と生物の変遷	64.0	69.2
	化学変化と原子・分子	59.2	59.8
観点別	科学的な思考・表現	59.2	60.3
	観察・実験の技能	66.1	68.3
	自然事象についての知識・理解	59.2	61.8



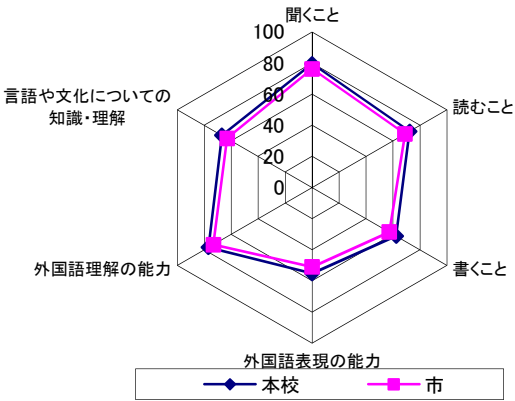
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	正答率は宇都宮市の平均より3.7%高い。音の問題ではすべての問題で正答率が高かった、特に音の伝わり方については正答率が93%であった。力と圧力の問題は、圧力を求める問題の正答率が他に比べると低かった。しかし、気圧による現象はよく理解していた。	光や音、力など日常生活と関連した事物・現象に関する観察・実験を今後も数多く取り入れるとともに、規則性や性質等について考える時間を十分にとっていききたい。日常生活や社会と関連付け、ものづくりを取り入れ、原理や仕組みの理解を深めていきたい。少数の割り算を苦手としている生徒が少なくないので、計算力を高めたい。
大地の成り立ちと変化	正答率は宇都宮市の平均より5.3%低い。火山の問題では、鉱物とマグマのねばりけの関係を問う問題の正解率が低かった。地震の問題では、「初期微動」が書けない生徒が半数ちかくいた。地層の重なりの問題は堆積物の大きさと海の深さとの関係の正答率が低かった。	火山や地震については、日本付近のプレートの動きなど地球の内部の働きと関連付けてとらえさせるとともに、野外観察などをもとに地層の規則性や過去の様子を考察させることが重要である。しかし、野外観察が難しい実情をふまえ、地震や火山活動の過去の映像資料を大いに活用して学習を進めたい。
動物の生活と生物の変遷	正答率は宇都宮市の平均より5.2%低い。生物と細胞について、「器官」の正答率が低かった。消化について、唾液のはたらきの正答率が低かった。セキツイ動物や無セキツイ動物についての設問に対する正答率はとても高いが、シソチョウがは虫類と鳥類の特徴をもつことを理解している生徒がやや少なかった。	動物の体のつくりと働きや、動物の体のつくりなどの特徴に基づいて分類できることを理解させ、動物の総合的な見方や考え方を養うことが大切である。そこで、観察や実験から得られた情報を処理させ、結果を分析させたり、レポートの作成や発表を行わせたりするなどにより、思考力や表現力などを高めたい。
化学変化と原子・分子	正答率は宇都宮市の平均より0.6%低い。酸化銀の問題では、銀の化学式を書ける生徒が少なかった。水の電気分解の問いは概ね正解率が高かった。酸化銅の還元では、化学反応式を理解している生徒が少なかった。質量保存の法則は概ね正解率が高かった。	化学変化に関する実験を数多く取りれてきたことで、基本的な理解はある程度深まっていると考える。しかし、化学変化を化学反応式で示せる生徒が、多くないのも事実である。今後は、目に見えないものでもモデル化することで、化学反応を原子・分子レベルで理解できるように、科学的な見方や考え方を養っていききたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	79.5	76.2
	読むこと	72.3	68.9
	書くこと	62.3	57.2
観点別	外国語表現の能力	55.2	51.0
	外国語理解の能力	77.0	73.4
	言語や文化についての知識・理解	67.0	63.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	宇都宮市の正答率を3.3%上回っている。Classroom EnglishやInteractionによる口頭導入など、概ね英語による授業を行っている。ALTとのTeam Teachingでは主としてインタビュー活動等を行っている。リスニングを得意としている生徒が多く、英語を聞き取ることに対する苦手意識は少ない。	「したいこと」について英文の要点を聞き取る設問では、正答率が市平均を1.1%下回っている。今後も引き続き授業の中で生徒が英語を耳にする機会を多くし、To不定詞を含め、リスニングの際の聞き方のポイントやメモの取り方などを指導していきたい。
読むこと	宇都宮市の正答率を3.4%上回っている。授業では、ワークシートを用いて、本文の要点をまとめたり、和訳を行ったりしている。長文の大まかな内容をつかむことが得意な生徒が多いが、細部について問われると正答率が低くなる。	動詞の過去形や過去進行形など、学習して時間が経っている設問については正答率が低かった。単語や文法は繰り返し復習できる機会を授業の中で設けていきたい。また、対話文に数多く触れさせたり、知らない単語が出てきても前後の文脈から意味を推測できるような練習をしていきたい。
書くこと	宇都宮市の正答率を5.1%上回っている。通常の授業では単語や基本文の小テスト、問題練習、また单元ごとに既習事項を用いた英作文を行っている。日本語を英語に直す問題はできるが、自分の意見を3文以上などのまとまった内容で書く活動に対し、苦手意識を持つ生徒が見られる。	場面に応じて書く英作文の設問では、正答率が低かった。今後も基礎基本の文法事項を定着させるドリル活動を行い、5W1Hを意識した英作文の課題設定を工夫し、向上を図りたい。